

特集

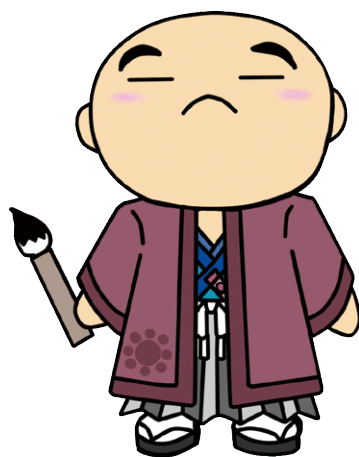
田辺藩 400年 今に残る歴史

—西舞鶴のまち並みから—

田辺城を築城し、西舞鶴のまちの基礎を作った細川幽斎公をイメージして作られたキャラクターの「ゆうさいくん」。細川幽斎没後 400 年となった 2010 年に誕生しました。

「ゆうさいくん」は知っている、見たことあるという人は多いかもしれませんが、今の西舞鶴が形作られた歴史を知っている人は意外と少ないのではないのでしょうか。

西舞鶴の城下町づくりが始まった当時、西舞鶴は海拔の低い湿地帯。そこから現在の西舞鶴が作られた歴史にはたくさんの物語がありました。



▲ゆうさいくん



細川藤孝による丹後の平定

舞鶴の近世の幕開けは、湿地帯で田園が広がっていた西舞鶴の平野部に田辺城が築城されたことに始まります。

戦国時代の丹後は一色氏が治めていましたが、1579(天正7)年に織田信長の命を受けた明智・細川勢に攻略されて衰退し、1580(天正8)年から細川藤孝(幽斎)・忠興が治めることになりました。田辺城は1588(天正16)年に幽斎(藤孝)の隠居城として築かれたといわれています。そして田辺城はその優美な姿から舞鶴城とも呼ばれました。

田辺藩の立藩

1600(慶長5)年、関ヶ原の戦いの功績により、細川忠興は豊前国(福岡県・大分県)などを与えられ、豊前国中津へ移ることとなりました。細川家のあとには、京極高知が入国。1622(元和8)年に高知が死去すると、丹後は宮津・田辺・峰山の3藩に分割され、三男の高三が田辺を治めることになり、ここに田辺藩が立藩されることになったのです。

田辺から舞鶴へ

田辺藩は京極高三が初代田辺藩藩主となり、2代目藩主高直を経て、3代目高盛の時に但馬国豊岡へ国替えとなりました。代わって田辺藩を治めることになるのが、牧野家です。以後、牧野家が約200年にわたり田辺藩を治め、明治維新の後10代目弼成すけしげの時、1869(明治2)年に田辺を舞鶴へ改めることとなりました。

分厚い歴史の上にある西舞鶴

舞鶴市の歴史の中で、大きなまちづくりが行われたのは2回。明治時代の海軍による市街地づくり。そして、今回特集する安土桃山時代から江戸時代にかけて行われた、西舞鶴の田辺城下町づくりです。今でも西舞鶴地区のまち並みからは、城下町の歴史を感じられる部分が見られます。皆さんが普段何気なく見ているものや何気なく通っている道は、実は江戸時代に起源を持つものかもしれません。